

7. 認知症高齢者の事故防止

レベル★★★★★

下に示した1つめのイラストは、デイサービスで認知症高齢者が窓の外を見て立ち上がろうとしているところです。また、2つ目のイラストはトイレの様子です。これらのイラストを見て、認知症高齢者の行動について次の観点から自由に話し合ってみましょう。

下のイラストを見て、次の観点から自由に話し合ってみましょう。

- ①どのような危険が考えられるか。
- ②なぜ危険だと考えられるのか。
- ③介護者はどのようにすると危険が防止できるか。

注意点

間違い探しではないので、限りなく自由に想像して意見を出し合います。



【リスクマネジメント研修 解答・解説】

7. 認知症高齢者の事故防止

認知症高齢者は、時として思いもよらない行動をとる。検討する時は、施設にいる利用者の行動を想定して話し合うとよい。

例えば、ある施設での検討会において、左のイラストでは、「立ち上がろうとするが、手すりがないため転倒してしまう」「立ち上がって突進し、ガラス戸にぶつかってしまう」「ガラス戸の前の花を異食してしまう」「近くの利用者とけんかになって暴力をふるう」「ガラス戸の下のロッカーを全部開けてしまう」などの意見が出た。また、介護職のとるべき行動としては、「手すりの付いているいすを準備する」「ガラス戸に『ガラス注意』と張り紙をする」「散歩をしたり、本人の興味が持てる手を使った作業をしてもらったりする」などの意見が出た。

右のイラストでは、トイレ用洗剤などが置かれているが、異食する可能性を考えて、施設のトイレには薬品などは置くべきではない。見えない所にしまっておく。

また、異食リスクのある利用者であれば、常に口腔内をチェックすることも必要である。

異食の原因は、認知症による判断力の低下や記憶障害、失見当などにより食べ物とそうでない物の区別をつけることができずに口に運んでしまうことによると考えられている。このため、認知症高齢者の身の回りにあるほとんどの物は異食物の対象となる可能性がある。

介護者は、まず高齢者が空腹ではないか、食事量が消費カロリーと合っているかを考えてみる。また、認知症高齢者は口にした物により、誤嚥や喉に詰まらせたりする危険性がある。

〈異食しやすい物〉

- ① ゴム手袋、ビニール、ビニール袋
- ② タオル、靴下、おしぼり、ぬいぐるみ、ガーゼ、クッションや人形の綿
- ③ 紙テープ、紙・折り紙、トイレットペーパー、ティッシュペーパー、おむつ
- ④ 観葉植物、花の花卉
- ⑤ 便 など

【参考文献】

1) 古澤章良:福祉施設における危険予知訓練(KYT)かんたんガイド, P.1~7, 筒井書房, 2010.